

ヒューマンセンシング：デジタル技術で人の気持ちや行動を理解する



景山 陽一

Yoichi Kageyama

教授 博士（工学）

大学院理工学研究科 数理・電気電子情報学専攻 人間情報工学コース

研究キーワード

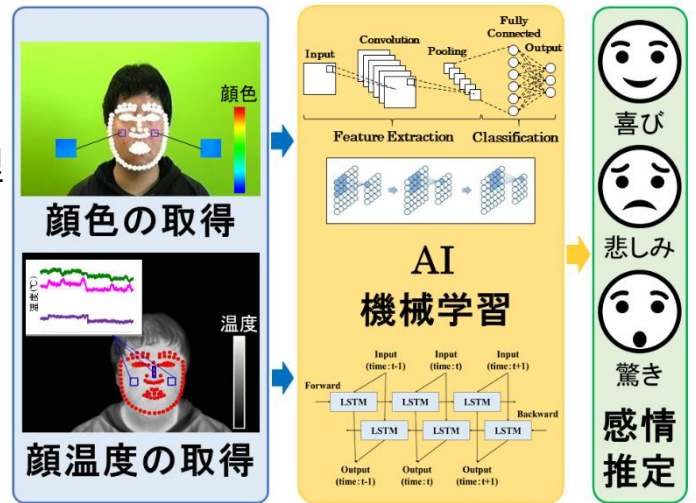
画像処理、AI、ヒューマンセンシング、リモートセンシング、産業応用、感性情報処理

研究概要

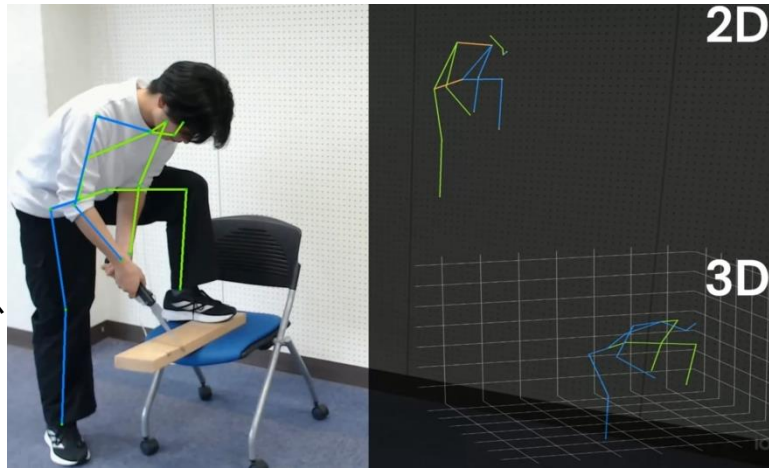
顔から得られる色情報や顔温度、顔の部位の動き情報、体の動きなどに着目して、人の気持ちや体調、人の行動を推定するデジタル技術について検討しています。

例えば、eスポーツをしている高齢者の感情を推定したり、デジタルコンテンツを視聴している人の関心度などを推定したりする技術の開発を各種センシング技術やAIを用いて行っています。

また、体の動きから骨格情報を抽出し、人の行動を推定する技術の開発を行っています。建設現場などでは、対象者の身体の一部がカメラに映らない場合がありますが、取得されていない骨格情報をAIを用いて補完し、対象者の行動を推定することが可能です。



人の感情推定



骨格情報による2次元, 3次元情報推定

予想される応用例

- ・コミュニケーション支援など、人の特徴を考慮したシステムへの応用
- ・作業環境下における安全・安心支援

産業界へのアピールポイント

AIなどのデジタル技術を開発・活用して、人と人のつながりの質を高め、多様な幸せ（Well-being）の実現を目指しています。